

7 セル苗利用による施設キュウリの不耕起連続栽培

福島県農業試験場 野菜部
平成11年度春夏作試験成績概要
分類コード03-01-07182900

部 門 名 野菜－キュウリー移植・作型・作業技術
担 当 者 大越聡

I 新技術の解説

1 要旨

- (1) 本県における施設キュウリの代表的作型は、半促成栽培＋抑制栽培の1年2作体系である。この体系の省力化技術として、抑制栽培における不耕起連続栽培技術を 確立した。
- (2) 本技術は、①市販のセル苗を購入し、②半促成栽培で使用した植え床をそのままの状態 で利用し、③購入セル苗を二次育苗することなく直接定植するものである。
- (3) 本技術では、従来行ってきた育苗、施肥、耕うん、畦立て・灌水資材の設置、マルチ被覆等の各作業を省略することができる。また、セル苗を利用することで苗運搬作業が慣行より軽労化されるとともに、半促成栽培の後片づけも簡略化される。
- (4) セル苗を用いた不耕起連続栽培におけるキュウリの生育収量は、慣行栽培と同等である。

2 期待される成果

キュウリの半促成栽培＋抑制栽培の体系で、抑制栽培にセル苗を利用した不耕起栽培を導入することで、抑制栽培の作業時間を約10%（約60時間）削減することができる。

3 適用範囲

県内の施設キュウリ栽培

4 留意点

- (1) セル苗は、購入後できるだけ早めに定植する。
- (2) セル苗は、若苗なので定植後活着までは灌水をこまめに行う(少量多灌水)。

II 具体的データ等

表1. 福島県における施設キュウリの作型（無加温栽培の場合）

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
○	⊗	—	—	—	—	—	—	—	—
半促成栽培					○	⊗	—	—	抑制栽培
							—	—	

○：播種 ⊗：定植 —：収穫期間

表2. 半促成栽培収穫終了後から抑制栽培苗定植までの作業体系

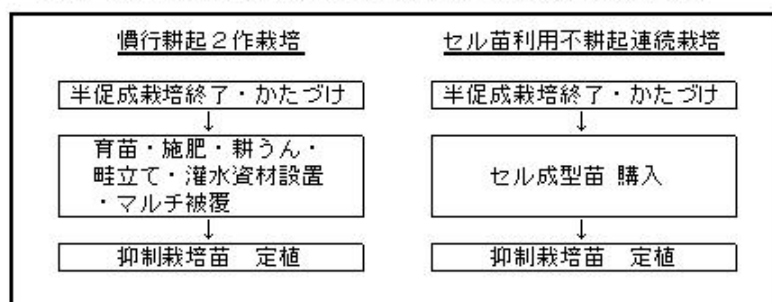


表3. 無加温抑制栽培の時期別・規格別収量（10株あたりkg、2ヶ年平均値）

半促成→抑制	時期別収量				規格別収量		
	8月	9月	10月	合計	A級	B級	合計
慣行苗→セル苗不耕起	7.3	25.7	17.5	50.5	31.2	19.3	50.5
慣行苗→慣行苗耕起	8.8	22.9	16.2	47.9	26.3	21.6	47.9

※ 調査期間：平成10年 8月17日～10月27日、平成11年 8月22日～10月31日

※ 供試品種：穂木 平成10年は南極3号、平成11年はインパクトC
台木 平成11年のセル成型苗のみひかりパワーゴールド、
他はひかりパワー

Ⅲ その他

1 執筆者：酒井孝雄・高橋 徹

2 主な参考文献・資料：